

問 1 医薬品の本質に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品が人体に及ぼす作用は、複雑、かつ、多岐に渡り、必ずしも期待される有益な効果（薬効）のみをもたらすとは限らない。
- b 医薬品は、市販後にも、医学・薬学等の新たな知見、使用成績等に基づき、その有効性、安全性等の確認が行われる仕組みになっている。
- c 一般用医薬品は、製造物責任法（平成 6 年法律第 85 号）の対象ではない。
- d 一般用医薬品は、一般の生活者が自ら選択し、使用するものであるため、販売の際に薬剤師や登録販売者からの情報提供及び相談対応が不可欠である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 2 医薬品のリスク評価に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 少量の医薬品の投与であれば、長期投与されても慢性的な毒性が発現することはない。
- b 医薬品の効果とリスクは、用量と作用強度の関係（用量-反応関係）に基づいて評価される。
- c LD₅₀とは、動物実験により求められる 50%致死量のことであり、薬物の毒性の指標として用いられる。
- d 「無作用量」とは、薬物の効果が発現し、有害反応が発現しない投与量のことである。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問3 医薬品のリスク評価に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a Good Post-marketing Study Practice (GPSP) とは、医薬品の製造販売後安全管理の基準のことである。
- b Good Laboratory Practice (GLP) とは、医薬品の製造販売後の調査及び試験の実施の基準のことである。
- c Good Vigilance Practice (GVP) とは、医薬品の安全性に関する非臨床試験の基準のことである。
- d Good Clinical Practice (GCP) とは、ヒトを対象とした臨床試験の実施の基準のことである。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	誤	誤	誤	正
3	正	正	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	正	正	誤	正

問4 健康食品に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 健康増進や維持の助けになることが期待されるいわゆる「健康食品」は、あくまで食品であり、医薬品とは法律上区別される。
- b 医薬品との相互作用で薬物治療の妨げになることがあるため、一般用医薬品の販売時に健康食品の摂取の有無について確認することは重要である。
- c 「栄養機能食品」は、栄養成分の機能の表示をするものとして国が個別に許可したものである。
- d 「特定保健用食品」は、事業者の責任で科学的根拠をもとに機能性関与成分が有する健康維持及び増進に役立つ機能を商品のパッケージに表示するものとして国に届出されたものである。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	正	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	誤	誤
5	誤	正	正	正

問5 セルフメディケーションに関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 セルフメディケーション税制は、条件を満たした場合に、税制の対象となるOTC医薬品の購入の対価について、一定の金額をその年分の総所得金額等から控除する制度である。
- 2 セルフメディケーション税制の対象となる一般用医薬品は、現在、スイッチOTC医薬品のみである。
- 3 適切な健康管理の下で医療用医薬品からの代替を進める観点から、セルフメディケーション税制が導入された。
- 4 登録販売者が地域住民の健康相談を受け、一般用医薬品の販売や必要な時は医療機関の受診を勧める業務は、セルフメディケーションの推進に欠かせない業務である。

問6 医薬品の副作用に関する以下の記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

世界保健機関（WHO）の定義によれば、医薬品の副作用とは、「疾病の予防、診断、治療のため、又は身体の機能を（ a ）ために、人に（ b ）で発現する医薬品の有害かつ（ c ）反応」とされている。

	a	b	c
1	増強させる	用いられる最小量	意図しない
2	増強させる	通常用いられる量	予測できる
3	正常化する	用いられる最小量	予測できる
4	正常化する	通常用いられる量	予測できる
5	正常化する	通常用いられる量	意図しない

問7 アレルギー（過敏反応）に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般的にあらゆる物質によって起こり得るものであり、医薬品の薬理作用等とは関係なく起こり得る。
- b 医薬品の添加物は、アレルギーを引き起こす原因物質とはならない。
- c アレルギー症状は、結膜炎症状、鼻炎症状、皮膚症状、やや広い範囲にわたる腫れ等が生じることが多い。
- d 体質的・遺伝的な要素はない。

- 1（a、c） 2（a、d） 3（b、c） 4（b、d）

問 8 医薬品の副作用に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 日常生活に支障を来す程度の健康被害を生じる重大な症状をいい、眠気等の比較的良好に見られる症状は含まない。
- b 医薬品が人体に及ぼす作用は、すべてが解明されているわけではないため、十分注意して適正に使用された場合であっても、副作用を生じることがある。
- c 一般用医薬品を使用するときは、重大な副作用を回避することよりも、使用を継続することによる利益が優先される。
- d 容易に異変を自覚できるものばかりでなく、血液や内臓機能への影響等のように、明確な自覚症状として現れないこともある。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 9 医薬品の使用等に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品には、習慣性・依存性がある成分を含んでいるものはない。
- b 登録販売者は、医薬品の適正な使用が図られるよう、購入者等の理解力や医薬品を使用する状況等に即して説明すべきである。
- c 症状が改善しないまま、一般用医薬品の使用を漫然と続けているような場合には、適切な治療の機会を失うことにもつながりやすい。
- d 人体に直接使用されない医薬品は、使用する人の誤解や認識不足によって使い方や判断を誤ることにより、副作用につながることもある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	誤	正	正	正

問10 医薬品の相互作用等に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品のかぜ薬や解熱鎮痛薬等では、成分や作用が重複することが少ないため、通常、これらの医薬品を併用することが推奨されている。
- b 相談者が医療機関・薬局から交付された薬剤を使用している場合には、登録販売者が一般用医薬品を併用しても問題ないかを判断する。
- c 複数の医薬品を併用した場合、医薬品の作用が増強することはあるが、減弱することはない。
- d 相互作用は、医薬品が吸収、分布、代謝又は排泄^{せつ}される過程で起こるものと、医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こるものがある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	正	正

問11 小児の医薬品使用等に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 年齢に応じた用法用量が定められていない医薬品の場合は、保護者等に対して、成人用の医薬品の量を減らして小児へ与えるよう説明する必要がある。
- 2 小児は、血液脳関門が未発達であるため、吸収されて循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に達しやすい。
- 3 小児は、腎臓の機能が未発達であるため、医薬品の成分の排泄^{せつ}に要する時間が短く、作用が弱くなりやすい。
- 4 小児は、大人と比べて身体の大きさに対して腸が短いため、服用した医薬品の吸収率が相対的に低く、期待する効果が得られない場合がある。

問12 高齢者の医薬品の使用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般に高齢者は生理機能が衰えつつあり、特に、腎臓の機能が低下していると医薬品の作用が現れにくくなる。
- b 基礎体力や生理機能の衰えの度合いは個人差が大きく、年齢のみから一概にどの程度副作用を生じるリスクが増大しているかを判断することは難しい。
- c 高齢者は、持病（基礎疾患）を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化したり、治療の妨げとなる場合がある。
- d 医薬品の副作用で口渇が生じた場合、高齢者は誤嚥^{えん}を誘発しやすくなるので注意が必要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	正	正	正

問13 プラセボ効果に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に薬理作用による作用を生じることをプラセボ効果という。
- b 一般用医薬品の使用によってもたらされる望ましい反応や変化がプラセボ効果と思われるときは、それを期待して使用を継続するべきである。
- c プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には、望ましいもの（効果）と不都合なもの（副作用）がある。
- d プラセボ効果は、時間経過による自然発生的な変化（自然緩解等）が関与して生じる場合がある。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問14 医薬品の品質に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品に配合されている成分には、高温や多湿、光によって品質の劣化を起こしやすいものが多い。
- b 一般用医薬品は、家庭における常備薬として購入されることも多いことから、外箱等に記載されている使用期限から十分な余裕をもって販売がなされることが重要である。
- c 医薬品は、適切な保管・陳列がなされると、経時変化による品質の劣化は起こらない。
- d 医薬品の外箱等に記載されている使用期限は、未開封状態で適切に保管された場合に品質が保持される期限である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	誤	正	正

問15 適切な医薬品選択及び受診勧奨に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 高熱や激しい腹痛がある場合等、症状が重いときに一般用医薬品を使用することは、一般用医薬品の役割にかんがみて適切な対処といえる。
- b 情報提供は、必ずしも医薬品の販売に結びつけるのではなく、医薬品の使用によらない対処を勧めることが適切な場合がある。
- c 一般用医薬品を一定期間若しくは一定回数使用しても、症状の改善がみられないときには、医療機関を受診して医師の診療を受ける必要がある。
- d 乳幼児について、一般用医薬品で対処可能な症状等の範囲は、通常の成人の場合と同様である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	誤	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問16 一般用医薬品の販売等に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の場合、必ずしも情報提供を受けた当人が医薬品を使用するとは限らないことを踏まえ、販売時のコミュニケーションを考える必要がある。
- b 登録販売者は、全ての一般用医薬品の販売、情報提供等を担う観点から、一般の生活者のセルフメディケーションに対して支援していくという姿勢で臨むことが基本となる。
- c 購入者等が医薬品を使用する状況は、随時変化する可能性があるが、販売時のコミュニケーションの機会が継続的に確保されるよう配慮する必要はない。
- d 一般用医薬品は、家庭における常備薬として購入されることも多いため、登録販売者においては、その医薬品がすぐに使用される状況にあるか把握するよう努めることが望ましい。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問17 サリドマイド及びその訴訟に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a サリドマイド訴訟は、サリドマイド製剤を妊婦又は妊娠していると思われる女性が使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の先天異常が発生したことに対する損害賠償訴訟である。
- b 日本では、サリドマイド製剤の催奇形性について海外から警告が発せられた後、直ちに出荷停止、販売停止及び回収措置がとられた。
- c サリドマイドは、催眠鎮静成分として承認されたが、副作用として血管新生を促進する作用があった。
- d サリドマイドによる薬害は、その光学異性体のうち、一方の異性体のみが有する作用であることから、もう一方の異性体を分離して製剤化した場合には、避けることができる。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	誤	正	正
5	正	正	誤	誤

問18 スモン及びその訴訟に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 スモン訴訟は、キノホルム製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- 2 スモンは、その症状として、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、次第に下半身の痺れや脱力、歩行困難等が現れる。
- 3 スモン訴訟により、緊急に必要とされる医薬品を迅速に供給するための緊急輸入制度が創設された。
- 4 スモン患者に対する施策や救済制度として、施術費及び医療費の自己負担分の公費負担や重症患者に対する介護事業等が講じられている。

問19 ヒト免疫不全ウイルス（H I V）訴訟に関する以下の記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

H I V 訴訟は、血友病患者が、H I V が混入した（ a ）から製造された（ b ）の投与を受けたことにより、H I V に感染したことに対する損害賠償訴訟である。

本訴訟の和解を踏まえ、H I V 感染者に対する恒久対策のほか、製薬企業に対し従来の副作用報告に加えて（ c ）の義務づけ等を内容とする改正薬事法が成立し、施行された。

	a	b	c
1	原料血漿 ^{しょう}	免疫グロブリン製剤	市販後の副作用情報の収集
2	原料血小板	免疫グロブリン製剤	市販後の副作用情報の収集
3	原料血漿 ^{しょう}	免疫グロブリン製剤	感染症報告
4	原料血小板	血液凝固因子製剤	市販後の副作用情報の収集
5	原料血漿 ^{しょう}	血液凝固因子製剤	感染症報告

問20 クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）及びその訴訟に関する以下の記述について、
（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

CJDは、（ a ）の一種であるプリオンが原因とされ、手術等に用いられていた（ b ）を介して脳の組織に感染し、次第に認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病である。

CJDによる損害賠償訴訟後、（ c ）による感染等被害救済制度の創設がなされた。

	a	b	c
1	タンパク質	ヒト乾燥硬膜	生物由来製品
2	タンパク質	麻酔薬	生物由来製品
3	タンパク質	ヒト乾燥硬膜	再生医療等製品
4	ウイルス	麻酔薬	再生医療等製品
5	ウイルス	ヒト乾燥硬膜	生物由来製品

問21 かぜ薬の主な配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 解熱鎮痛成分として、アセトアミノフェンがある。
- b 解熱作用がある生薬成分として、ジリュウがある。
- c 痰の切れをよくする成分として、ブロムヘキシン塩酸塩がある。
- d 抗ヒスタミン成分として、デキストロメトルフアン臭化水素酸塩水和物がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	誤	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	正	正	誤

問22 かぜ薬に配合される漢方処方成分に関する以下の記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

かぜ薬に配合される漢方処方成分、又は単独でかぜの症状緩和に用いられる漢方処方製剤の主なものに、葛根湯、麻黄湯、小柴胡湯、柴胡桂枝湯、小青竜湯、桂枝湯、香蘇散、半夏厚朴湯、麦門冬湯がある。

これらのうち半夏厚朴湯を除くいずれも、構成成分として（ a ）を含む。また、これらのうち、葛根湯、麻黄湯、小青竜湯には、構成生薬として（ b ）を含む。

	a	b
1	サイコ	マオウ
2	カンゾウ	サイコ
3	カンゾウ	マオウ
4	マオウ	カンゾウ
5	マオウ	サイコ

問23 次の1～5で示される成分のうち、解熱鎮痛成分（生薬成分の場合を除く。）による胃腸障害の軽減を目的として、かぜ薬に配合されている制酸成分はどれか。

- | | | |
|---------------|------------|-----------|
| 1 アミノエチルスルホン酸 | 2 酸化マグネシウム | 3 アスコルビン酸 |
| 4 フルスルチアミン塩酸塩 | 5 カフェイン | |

問24 眠気を促す薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 妊娠中にしばしば生じる睡眠障害は、睡眠改善薬の適用対象となる。
- b 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、慢性的に続く睡眠障害の緩和に適している。
- c 生薬成分のみからなる鎮静薬であっても、複数の鎮静薬の併用や、長期連用は避けるべきである。
- d アリルイソプロピルアセチル尿素は、少量でも眠気を催しやすく、それにより重大な事故を招くおそれがある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問25 眠気を防ぐ薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 吸収されて循環血液中に移行したカフェインの一部は、血液-胎盤関門を通過して胎児に到達する。
- b カフェインは、副作用として振戦、めまい、不安、不眠、頭痛等を生じることがある。
- c カフェインの眠気防止に関連しない作用として、腎臓におけるナトリウムイオンの再吸収促進作用がある。
- d カフェインは乳汁中に移行しないことから、授乳中の女性でも摂取量を気にせず摂取できる。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問26 鎮^{うん}暈薬（乗物酔い防止薬）に含まれる成分に関する以下の記述について、（ ）の中に入れるべき字句として正しいものはどれか。なお、（ ）内はすべて同じ字句が入る。

（ ）は、延髄にある嘔吐^{おう}中枢への刺激や内耳の前庭における自律神経反射を抑える作用を示す。ジメンヒドリナートは乗物酔い防止薬に配合される（ ）である。

- 1 抗めまい成分
- 2 抗ヒスタミン成分
- 3 抗コリン成分
- 4 局所麻酔成分
- 5 キサンチン系成分

問27 鎮咳去痰薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 鎮咳去痰薬には、咳を鎮める成分、気管支を拡げる成分、痰の切れを良くする成分、気道の炎症を和らげる成分等を組み合わせて配合されている。
- b コデインリン酸塩水和物は、血液-胎盤関門を通過しない。
- c コデインリン酸塩水和物は、胃腸の運動を活発にさせる作用がある。
- d メチルエフェドリン塩酸塩は、交感神経系を刺激して気管支を拡張させる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	誤	正

問28 抗炎症成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a カンゾウは、グリチルリチン酸による抗炎症作用のほか、気道粘膜からの粘膜分泌を促す等の作用も期待される。
- b カンゾウの煎薬は、短期間の服用で咳や喉の痛みが鎮まらない場合、継続して長期間服用することが必要である。
- c カンゾウは、甘味料として一般食品等にも広く用いられるため、摂取されるグリチルリチン酸の総量が継続して多くなならないよう注意を促すことが重要である。
- d 甘草湯のエキス製剤は、乳幼児には使用できない。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問29 第1欄の記述は、咳止めや痰^{せき}を出しやすくする目的で用いられる漢方処方製剤に関するものである。第1欄の記述に該当する漢方製剤として正しいものは第2欄のどれか。

第1欄

体力中等度をめやすとして、気分がふさいで、咽頭・食道部に異物感があり、ときに動悸^き、めまい、嘔気^{おう}等を伴う不安神経症、神経性胃炎、つわり、咳^{せき}、しわがれ声、のどのつかえ感に適すとされる。

第2欄

- | | | | | | | | |
|---|--------------------------|---|-----------------------|---|-----------------------------|---|----------------------------|
| 1 | 麦門冬湯 ^{ばくもんどうとう} | 2 | 柴朴湯 ^{さいぼくとう} | 3 | 麻杏甘石湯 ^{まきょうかんせきとう} | 4 | 半夏厚朴湯 ^{はんげこうぼくとう} |
| 5 | 神秘湯 ^{しんぴとう} | | | | | | |

問30 第1欄の記述は制酸薬に関するものである。()の中に入れるべき字句は第2欄のどれか。なお、()内はすべて同じ字句が入る。

第1欄

制酸成分のうち()を含む成分については、透析療法を受けている人が長期間服用した場合に()脳症及び()骨症を引き起こしたとの報告があり、透析療法を受けている人では使用を避ける必要がある。また、透析治療を受けていない人でも、長期連用は避ける必要がある。

第2欄

- | | | | | | |
|---|--------|---|-------|---|--------|
| 1 | ナトリウム | 2 | カルシウム | 3 | アルミニウム |
| 4 | マグネシウム | 5 | 亜鉛 | | |

問31 瀉下^{しゃ}成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a マルツエキスは、瀉下^{しゃ}薬としては比較的作用が穏やかなため、主に乳幼児の便秘に用いられる。
- b ヒマシ油は、大腸のうち特に結腸や直腸の粘膜を刺激して、排便を促すと考えられている。
- c センノシドは、大腸に生息する腸内細菌によって分解され、分解生成物が大腸を刺激して瀉下^{しゃ}作用をもたらすと考えられている。
- d ビサコジルは、小腸でリパーゼの働きによって生じる分解物が、小腸を刺激することで瀉下^{しゃ}作用をもたらすと考えられている。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問32 膨潤性瀉下成分であるプラントゴ・オバタ種皮に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 主成分である麦芽糖が腸内細菌によって分解（発酵）して生じるガスによって便通を促す。
- 2 腸内細菌によって分解されて、分解生成物が大腸を刺激する。
- 3 腸内容物の浸透圧を高めることで糞便中の水分量を増し、また、大腸を刺激して排便を促す。
- 4 腸管内で水分を吸収して腸内容物に浸透し、糞便のかさを増やすとともに糞便を柔らかくする。

問33 止瀉成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a タンニン酸アルブミンは、鶏卵にアレルギーがある人では使用を避ける。
- b 便秘を避けなければならない肛門疾患がある人では、ロペラミド塩酸塩の使用を避けるべきである。
- c 細菌感染による下痢の症状を鎮めることを目的として、タンニン酸ベルベリンが用いられる。
- d 木クレオソートは、過剰な腸管の蠕動運動を正常化する。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	誤	誤

問34 消化管の運動に関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、2箇所の(a)内はどちらも同じ字句が入る。

消化管の運動は(a)の刺激によって亢進する。(b)は、(a)の伝達物質である(c)と受容体の反応を妨げることで、その働きを抑える。

	a	b	c
1	交感神経系	抗ヒスタミン成分	アドレナリン
2	副交感神経系	抗コリン成分	アセチルコリン
3	交感神経系	抗コリン成分	アセチルコリン
4	副交感神経系	抗ヒスタミン成分	ヒスタミン
5	副交感神経系	抗コリン成分	アドレナリン

問35 胃腸鎮痛鎮痙成分に関する以下の記述について、()内に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、2箇所の(a)内はどちらも同じ字句が入る。

(a)については、吸収された成分の一部が母乳中に移行して乳児の(b)が速くなるおそれがあるため、母乳を与える女性では使用を避ける必要がある。また、(a)により母乳が(c)ことがある。

	a	b	c
1	ロートエキス	脈	出にくくなる
2	パパペリン塩酸塩	呼吸	出にくくなる
3	ロートエキス	脈	出やすくなる
4	オキセサゼイン	呼吸	出やすくなる
5	オキセサゼイン	脈	出にくくなる

問36 胃腸鎮痛鎮痙薬^{けい}の使用等に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 腹部の痛みが次第に強くなる場合や、原因不明の痛みが30分以上続く場合には、医療機関を受診する等の対応が必要である。
- 2 原因不明の腹痛に安易に胃腸鎮痛鎮痙薬^{けい}を使用すると、痛みの発生部位が不明確となり、原因の特定を困難にすることがある。
- 3 血尿を伴って側腹部に痛みが生じた時に、胃腸鎮痛鎮痙薬^{けい}を使用することは適当でない。
- 4 下痢に伴う腹痛については、基本的に腹痛への対処が優先され、胃腸鎮痛鎮痙薬^{けい}の適用となる症状である。

問37 駆虫薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一度の服用量を増やすことで駆虫効果が高まる。
- b 回虫の場合、虫卵や腸管内以外に潜伏した幼虫にも十分な駆虫作用がある。
- c 再度駆虫を必要とする場合には、1ヶ月以上間隔を置いてから使用することとされている。
- d 一般用医薬品の駆虫薬が対象とする寄生虫は、回虫と蟯虫^{ぎょう}である。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問38 強心成分に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 センソが配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、口中で噛み砕くと舌等が麻痺^ひすることがあるため、噛まずに服用することとされている。
- 2 一般用医薬品では、センソの1日用量は5mg以下となるよう定められている。
- 3 ジャコウは、意識をはっきりさせる作用があるとされる。
- 4 ゴオウは、末梢血管を収縮させて血圧を上昇させる作用があるとされる。

問39 血中コレステロールに関する以下の記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

コレステロールは細胞の構成成分で、（ a ）や胆汁酸等の生理活性物質の産生に重要な物質である。コレステロールは水に（ b ）物質であるため、血液中では血漿タンパク質と結合したリポタンパク質となって存在する。リポタンパク質は比重によっていくつかの種類に分類されるが、そのうち（ c ）は、コレステロールを肝臓から末梢組織へと運ぶリポタンパク質である。

	a	b	c
1	副腎皮質ホルモン	溶けにくい	高密度リポタンパク質
2	副腎皮質ホルモン	溶けやすい	高密度リポタンパク質
3	副腎髄質ホルモン	溶けにくい	低密度リポタンパク質
4	副腎髄質ホルモン	溶けやすい	高密度リポタンパク質
5	副腎皮質ホルモン	溶けにくい	低密度リポタンパク質

問40 貧血用薬に配合される成分に関する以下の記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

貧血用薬に配合される成分のうち、（ a ）は、ヘモグロビンの産生過程で鉄の代謝や輸送に重要な役割を持つ。（ b ）は、ビタミンB12の構成成分であり、骨髄での造血機能を高める目的で配合される。また、（ c ）は、エネルギー合成を促進する目的で配合されている場合がある。

	a	b	c
1	コバルト	銅	マンガン
2	銅	亜鉛	マグネシウム
3	銅	コバルト	マンガン
4	マンガン	亜鉛	銅
5	マンガン	コバルト	マグネシウム

問41 痔、痔疾用薬及びその配合成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 痔瘻は、肛門の出口からやや内側の上皮に傷が生じた状態であり、一般に「切れ痔」と呼ばれる。
- b 外用痔疾用薬は、局所に適用されるものであるため、全身的な影響を生じることはない。
- c リドカイン塩酸塩は、知覚神経に作用して刺激の神経伝導を可逆的に遮断する作用を示す。
- d 肛門周囲の末梢血管の血行を改善する作用を期待して、ビタミンEが配合されている場合がある。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問42 女性の月経に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 月経は、子宮内膜が剥がれ落ち、血液と共に排出される生理現象である。
- b 月経前症候群とは、月経の約10～3日前に現れ、月経開始と共に消失する腹部膨満感、頭痛、乳房痛等の身体症状や感情の不安定、抑うつ等の精神症状を主体とするものをいう。
- c 閉経とは、月経が停止して、妊娠可能な期間が終了することをいう。
- d 月経周期には、扁桃体で産生されるホルモンと、卵巣で産生される女性ホルモンが関与する。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	正	誤	正	正

問43 婦人薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 妊婦又は妊娠していると思われる女性は、エチニルエストラジオールやエストラジオールといった女性ホルモン成分を摂取することが望ましい。
- b 鎮静、鎮痛のほか、女性の滞っている月経を促す作用を期待して、コウブシが配合されている場合がある。
- c 血行を促進する作用を目的として、ビタミンB6が配合されている場合がある。
- d 疲労時に消耗しがちなビタミンの補給を目的として、ビタミンB1が配合されている場合がある。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問44 アレルギー症状に対する受診勧奨及び内服アレルギー用薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 抗ヒスタミン成分は、ヒスタミンの働きを抑える作用以外に、抗コリン作用も示すため、排尿困難や口渇、便秘が現れることがある。
- b 一般用医薬品には、アトピー性皮膚炎による慢性湿疹等の治療に用いることを目的とするものはないことから、アトピー性皮膚炎が疑われる場合やその診断が確定している場合は、医師の受診を勧めることが重要である。
- c 皮膚感染症（たむし、疥癬等）による湿疹やかぶれ等に似た症状が現れた場合、アレルギー用薬によって一時的に痒み等の緩和を図ることは適当でなく、皮膚感染症そのものに対する対処を優先する必要がある。
- d プソイドエフェドリン塩酸塩は、薬物依存につながるおそれはなく、長期間にわたって連用することができる。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

問45 鼻に用いる薬の成分等に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の鼻炎用点鼻薬の対応範囲は、蓄膿症等の慢性のものであり、急性又はアレルギー性の鼻炎及びそれに伴う副鼻腔炎は対象となっていない。
- b 鼻粘膜の過敏性、痛みや痒みを抑える目的で、ケトチフェンフマル酸塩が局所麻酔成分として配合されている場合がある。
- c 鼻粘膜を清潔に保ち、細菌による二次感染を防止する目的で、ベンゼトニウム塩化物が殺菌消毒成分として配合されている場合がある。
- d 減感作療法によるアレルギーの治療を受けている人がクロモグリク酸ナトリウムを使用すると、相互作用により減感作療法の治療効果が上がる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問46 眼科用薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 人工涙液は、涙液成分を補うことを目的とするもので、目の疲れや乾き、コンタクトレンズ装着時の不快感等に用いられる。
- b 一般用医薬品の点眼薬には、緑内障の症状改善を目的とした製品がある。
- c 点眼薬1滴の薬液の量は約50 μ Lであるのに対して、結膜囊の容積は30 μ L程度とされており、一度に何滴も点眼しても効果が増すわけではない。
- d 点眼後は、しばらくまばたきを繰り返して、薬液を結膜囊内に行き渡らせるとよい。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問47 眼科用薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アラントインは、局所麻酔成分であり、痛みや痒み^{かゆ}を和らげることを目的として配合されている。
- b パンテノールは、末梢の微小循環を促進させることにより、結膜充血、疲れ目の症状を改善する効果を期待して配合されている。
- c 精製ヒアルロン酸ナトリウムは、角膜の乾燥を防ぐことを目的として配合されている。
- d ホウ酸は、防腐効果を期待して配合されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問48 外皮用薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 外皮用薬は、表皮の角質層が柔らかくなることで有効成分が浸透しやすくなることから、入浴後に用いるのが効果的とされる。
- b 貼付剤は、同じ部位に連続して貼付すると、かぶれを生じやすい。
- c スプレー剤は、強い刺激を生じるおそれがあるため、目の周囲へ使用する場合は、患部から十分離して噴霧することが望ましい。
- d 火傷や化膿^{のう}した創傷面の消毒、口腔内の殺菌・消毒^{くう}を目的とする製品は、医薬部外品として製造販売されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	誤	誤

問49 皮膚に用いる薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a プレドニゾロン酢酸エステルは、水痘、みずむし、たむし等又は化膿^{のう}している患部の症状を悪化させるおそれがあり、使用を避ける必要がある。
- b ケトプロフェンが配合された外皮用薬では、使用中又は使用後しばらくしてから、紫外線が塗布部に当たることにより、重篤な光線過敏症が現れることがある。
- c スルコナゾール硝酸塩は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げたり、細胞膜の透過性を変化させたりすることにより、その増殖を抑える。
- d バシトラシンは、細菌のDNA合成を阻害することにより抗菌作用を示す。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	正	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問50 外皮用薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 尿素は、角質層の水分保持量を高め、皮膚の乾燥を改善することを目的として用いられる。
- b ピロキシリンは、創傷面に薄い皮膜を形成して保護することを目的として用いられる。
- c イオウは、皮膚の角質層を構成するケラチンを変質させることにより、角質軟化作用を示す。
- d サリチル酸は、角質成分を溶解することにより角質軟化作用を示す。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問51 歯や口中に用いる薬に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 歯痛薬では、齲蝕^{うしよく}が修復されることはない。
- 2 歯槽膿漏^{のう}薬には、炎症を起こした歯周組織からの出血を抑える作用を期待して、カルバゾクロムが配合されている場合がある。
- 3 歯槽膿漏^{のう}薬には、患部局所に適用する外用薬のほか、内服で用いるものもあり、外用薬と併せて用いると効果的である。
- 4 歯槽膿漏^{のう}薬には、歯周組織の修復を促すことを目的として、チモールが配合されている場合がある。

問52 口内炎及び口内炎用薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 口内炎は、口腔^{くわう}の粘膜上皮に水疱^{ほう}や潰瘍^{ほう}ができて痛み、ときに口臭を伴う。
- b 口内炎用薬であれば、ステロイド性抗炎症成分が配合されていても、長期の連用は問題ない。
- c 口内炎は、栄養摂取の偏り、ストレスや睡眠不足等が要因とされている口腔^{くわう}粘膜の炎症であり、ウイルスによって生じることはない。
- d アクリノールは、患部からの細菌感染を防止することを目的として配合される。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正

問53 禁煙補助剤に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a うつ病と診断されたことのある人は、禁煙時の離脱症状により、うつ症状を悪化させることがあるため、禁煙補助剤の使用を避ける必要がある。
- b パッチ製剤は、1日1回皮膚に貼付することにより、ニコチンが皮膚を透過して血中に移行する。
- c 口腔内が酸性になるとニコチンの吸収が上昇するため、コーヒー等の口腔内を酸性にする食品を摂取した後、しばらくは咀嚼剤の使用を避けることとされている。
- d 母乳を与えている女性は、禁煙することが推奨されるので、禁煙補助剤を使用することが望ましい。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問54 滋養強壮保健薬及びその配合成分に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 生薬成分であるゴオウ、ロクジョウの配合は、医薬品においてのみ認められている。
- 2 しみ、そばかすのような特定部位の症状に対する効能・効果は、医薬品においてのみ認められている。
- 3 脂溶性ビタミンでは、過剰摂取により過剰症を生じるおそれがある。
- 4 滋養強壮を目的とする薬用酒は、アルコール含有量が少ないため、服用後に乗り物又は機械類の運転操作等を避ける必要はない。

問55 ビタミン成分及びアミノ酸成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ビタミンDは、腸管でのカルシウム吸収及び尿細管でのカルシウム再吸収を促して、骨の形成を助ける栄養素である。
- b ビタミンB₂は、炭水化物からのエネルギー産生に不可欠な栄養素で、腸管運動を促進する作用がある。
- c アスパラギン酸ナトリウムは、アスパラギン酸が生体におけるエネルギーの産生効率を高めるとされ、骨格筋に溜まった乳酸の分解を促す等の働きを期待して用いられる。
- d システインは、髪や爪、肌等に存在するアミノ酸の一種で、皮膚におけるメラニンの生成を促進する働きがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	誤
5	正	正	誤	正

問56 漢方処方製剤に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 漢方処方は、処方全体としての適用性等、その性質からみて処方自体が一つの有効成分として独立したものという見方をすべきものである。
- b 現代中国で利用されている中医学に基づく薬剤は、中薬と呼ばれ、漢方薬とは明らかに別物である。
- c 用法用量において適用年齢の下限が設けられていない漢方処方製剤は、生後3ヶ月未満の乳児にも使用することができる。
- d 漢方処方製剤の使用においても、間質性肺炎や肝機能障害のような重篤な副作用が起きることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問57 第1欄の記載は漢方処方製剤に関するものである。第1欄の記述に該当する漢方処方製剤として正しいものは第2欄のどれか。

第1欄

体力中等度以下で、疲れやすく、汗のかきやすい傾向があるものの肥満に伴う関節の腫れや痛み、むくみ、多汗症、肥満症（筋肉にしまりのない、いわゆる水ぶとり）に適す。

第2欄

- | | | | | | |
|---|-------------------------------------|---|--------------------------------------|---|-------------------------------------|
| 1 | <small>おうれん げ どくとう</small>
黄連解毒湯 | 2 | <small>ぼう い おう ぎ とう</small>
防已黄耆湯 | 3 | <small>ぼうふうつうしょうさん</small>
防風通聖散 |
| 4 | <small>だिसい ことう</small>
大柴胡湯 | 5 | <small>せいじょうぼうふうとう</small>
清上防風湯 | | |

問58 消毒、消毒薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 殺菌・消毒は、生存する微生物の数を減らすために行われる処置である。
- b クレゾール石ケン液は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対して殺菌消毒作用を示す。
- c エタノールは、微生物のタンパク質の変性作用を有し、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対する殺菌消毒作用を示す。
- d 有機塩素系殺菌消毒成分は、塩素臭や刺激性、金属腐食性が比較的抑えられており、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられることが多い。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	誤

問59 殺虫剤・忌避剤及び衛生害虫に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 忌避剤は、人体に直接使用され、蚊やノミ等が人体に取り付いて吸血するのを防止することに加えて、虫さされによる痒みや腫れ等の症状を和らげる効果もある。
- b ダイアジノン^{かゆ}は、アセチルコリンを分解する酵素と不可逆的に結合してその働きを阻害することにより殺虫作用を示す。
- c イエダニは、ネズミを宿主として生息場所を広げていくため、まず、宿主動物であるネズミを駆除することが重要である。
- d ハエの防除の基本は、ウジの防除であり、防除法としては、通常、有機リン系殺虫成分が配合された殺虫剤が用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	正	正
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問60 妊娠検査薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 妊娠検査薬による検査結果をもって、妊娠しているか否かを断定することはできない。
- b 採尿後数時間経過した検体を用いて検査を行っても、検査結果に影響はない。
- c 検体の採尿のタイミングとしては、尿中ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG^{じゅう}）が検出されやすい夕方が向いている。
- d 通常、実際に妊娠が成立してから4週目前後の尿中hCG濃度を検出感度としている。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)